

子育ての中でお役に立てる源泉・プラスアルファをお伝えしていきます。

今回は『おもちゃの重要性』のお話しです。

豊かな力を育むおもちゃ、今回は本物のおもちゃの重要性についてふれてみたいのです。

お話し中の本物のおもちゃとは木などの自然のなかにあるものを使ったおもちゃのことです。

幼稚園では全てのおもちゃが木などで出来た “本物のおもちゃ” です。

そこには何か理由があるのでしょうか？まず、木製のおもちゃは色合いが優しく温かみがあります。

木の素材によってはざらざらしていたり ツルツルしていたりして、画一的ではありません。素朴で刺激的ではないので子どもたちが 想像力を働かせて様々な遊びを工夫します。

一つの木の積み木が、ご飯のおかずになったり 車の部品になったり、お皿になったり、ビー玉のコース になったりします。このように本物素材のおもちゃには、子どもたちの創り出す創造力やイメージする 想像力を豊かに育む力があるのです。

それでは、創造力や想像力は、大人になってどのような力になるのでしょうか？これはまさに、自らの人生を切り開いていく力になります。新しい発想の中であたらしい商品を作り出したり、思ってもみなかった出来事に遭遇したとき、新しい道を切り開いていったり、夢をあきらめずに偉業をなし遂げた先人たちもこれらの想像力や創造力が豊かだったからではないでしょうか？

素朴でシンプルな本物のおもちゃで工夫して遊ぶことによって、子どもたちは生きていく上で大切な力を身につけていくのですね。

あとがき

今回は『おもちゃの重要性』でした。シンプルな “本物のおもちゃ” で遊ぶ事は、与えられたストーリーの中で遊ぶ事で終わらず創造的な考えが溢れ出す心のエンジンをつくりだしてくれるんですね。

最後までお読みいただきありがとうございます。

子育ての中でお役に立てる源泉・プラスアルファをお伝えしていきます。

今回は『スマホについて』のお話です。

スマホを触らないだけで子どものコミュニケーション力が高くなる！

今日は人によってはちょっと耳の痛い話を書きます。

子どものそばでスマホなどの機械は触らないことが大切です、というものです。赤ちゃん、幼児は模倣で育ちます。例えば言葉を覚えるとき、子どもは大人がしゃべっているのを模倣して言葉を覚えようとします。一方スマホなどの機械は幼い子どもにとっては、模倣する要素が全くありません。人が言葉を発するとき 何かを伝達しようとする思いや感情が伴い、それが表情にも出てきます。そのすべてを子どもたちは吸収して言葉の意味を習得していきます。しかし、スマホの機能を使う 大人の仕草は真似できても、機能の意味することを習得することはできません。子どもは生身の人がする行為真似していくのです。また、スマホで何かをしている大人はそこに集中してしまい、子どもとコミュニケーションをする暇がありません。ですから子どもは寂しい思いをすることでしょう。子どもに愛を伝えるのに、スマホは必要ありません。子どもにコミュニケーション能力をつけたいならば、顔を見てのやり取りをたくさんすることです。

さあ今から始めましょう！

子どもからスマホを遠ざけ、電源を切るか、マナーモードにすることを。

あとがき

第3回は『スマホについて』でした。その通りと共感する部分も多かったでしょう？でも自身に照らし合わせると少し耳の痛い？…話でした。子育ての期間、特に幼少期の親子でいられる時間は一生の中でもとてもジュエリーな時間、大切にしなければいけませんね。

最後までお読みいただきありがとうございます。ご覧いただいている皆様にお役に立てる情報をお伝えできればと思っています。ご感想、ご意見はお気軽にご連絡ください。